

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校

a 学校教育目標	<広南学園> 未来を創る	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション> (学校の使命)	夢と志を持ち, 社会に貢献する人材を育成する
	「誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造」		<ビジョン> (将来の学校像)	○深い学びの精神と感謝の気持ち, 社会貢献への気概をもつ児童生徒を育て, 地域から信頼される学校 ○地域文化の拠点として地域の活性化に貢献する学校

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	平成27年度から「学びの変革」パイロット校の指定を受け、新学習指導要領の方向性を踏まえた教育の具現化を進め、特色ある教育課程および学校文化(礼節・挑戦・創造・貢献)が持続可能となる組織体制を構築してきた。また、一昨年度からは新学習指導要領が全面実施され指導と評価の一体化がより鮮明になり、授業改善と評価改善を両輪として取り組み始めた。本年度も昨年度の成果と課題を踏まえ、引き続き、授業改善と評価改善を両輪とした取組を進めながら、主体的に考え議論し自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して、本校の特色ある教育課程を継続・発展させた取組を進めていく。
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	挑戦・探究 責任・使命 感謝・貢献 協力・協働 知識・技能 情報収集・判断 思考・表現
-------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	9 月			1 月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
**	① 9年間を通して、確かな学力を育成する	① 子供の問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善 妥当性、信頼性を高めていく評価改善	・三角ロジックとICTを効果的に活用した、グループ別研究授業を、各教科で1回行う。 ・振り返りを次時に繋げていく。 ・自らの学習を調整しようとする「振り返り」を充実させる。 ・単元や題材などのまとまりごとの評価活動の工夫を行う。	・「三角ロジック」「ICT」の活用についての教師アンケートの肯定的評価の割合(R4:59%) ・「授業では理由を明らかにして発表している」の生徒アンケート肯定的評価の割合(R4:93%) ・全国学力・学習状況調査結果の全国平均値との差(R4:国語+3.0 数学-1.4) ・授業研究時、授業観察者の「評価シート」による評価 A以上の割合(R4:100%) ・「課題発見・解決学習」についての生徒アンケート肯定的評価(R4:90%)	70% 80% +3.0 90% 90%	45% 88% 国+13.2 数+3.0 未実施	64% 110% 100% 94%	C A A B			
**	① 礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する	生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展 体力の向上 不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力の向上	・生徒自身の課題とするために生徒会からの自主的な活動とする。 ・伝統の継承・発展に向けた生徒会の自律的な活動へ教師の立場から組織的に支援する。 ・「体力ONE UP PROJECT」による主体的な体力向上の推進 ・生活ノートや教育相談などで、個々の生徒の指導方針を明確化し、個別指導と個別支援を組織的に進めていく。	・「生徒会、委員会の提案する活動に積極的に協力しています」についての生徒アンケート肯定的評価(R4:89%) ・個人内目標を達成した生徒の割合(R4:84%) ・「毎日生活リズムを整えて生活しています」についての生徒アンケート肯定的評価(R4:91%) ・「将来の夢や目標を持っている」についての生徒アンケート肯定的評価(R4:91%)	90% 85% 90% 90%	91% 86% 88% 91%	101% 105% 98% 101%	A A B A			
*	① 自己有用感を高め、活力を生み出す学校をつくる	地域に感謝・貢献し、地域の人材を活用しながら地域と協働できる場の充実 ① 生徒の「自分の命は自分で守る」力の育成	・3学年「広南まちづくりプロジェクト」をはじめとして、総合的な学習の時間で各学年地域で挑戦する場を設定する。 ・「7・9広南防災の日」祈念式、地域や専門機関と協働した防災学習・避難訓練等を実施する。	・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」についての生徒アンケート肯定的評価(R4:93%) ・「地域との関わり」についての保護者アンケート肯定的評価(R4:100%) ・「防災について、家族や地域の人たちと関わりながら、自分の命は自分で守る力をつけている」についての生徒アンケート肯定的評価(R4:96%)	90% 90% 90%	64% 98% 96%	71% 111% 108%	C A A			
業務改善	① 働き方改革を推進する	① 長時間勤務の縮減に向けた業務改善	・教職員のタイムマネジメント力の向上を図る。(時間外勤務総量の自己調整) ・モジュール校内研修の実施。(職員朝会の活用)	・「子供と直接関わる時間が確保されている」教職員アンケート肯定的評価(R4:100%) ・時間外勤務時間45時間未満である教職員の割合(R4:76%)	90% 90%	92% 58%	102% 64%	A C			

[k:評価]
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 最終)

広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	(貫)9年間を通して、確かな学力を育成する	(貫)子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用」の肯定的評価は、教師82%であるが、生徒95%であり、生徒はタブレット活用の効果を実感していると考えられる。「三角ロジックの活用」は、教師アンケート45%と低かった。各教科において三角ロジックの活用場面を共有する等、教師の研修不足が課題である。 「授業では理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝わるように発表している」生徒は88%で、昨年度と比較して低くなった。自分の考えが伝わるように理由や根拠を明確にして話したり書いたりする学習を、すべての学習活動において意図的に設定できていないと考えられる。 全国学力・学習状況調査は、目標値を達成し、教科の平均正答率は非常に高い結果となった。昨年度の結果を踏まえて、学習指導の改善が適切に進められていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用は、生徒の学習意欲の向上につながっている。活用事例の研修などを通してさらに効果的な活用を進めていきたい。 すべての教科の学習活動において、「三角ロジック」を活用して根拠を用いた説得力のある主張になるような表現活動を行う。他者の意見を踏まえて、自己の考えと比較するなど協動的な学びを実践することにより、発表の質を高めていく。また、表現が苦手な生徒に「話型」を提示し発表させるなどの工夫を通して、表現力を身に付けさせていきたい。 今年度の結果を分析し、学校全体で全教科の授業改善・充実を図る。
		妥当性、信頼性を高めていく評価改善	<ul style="list-style-type: none"> 1学期は校内授業研究が未実施であった。 生徒の「自ら課題を解決しながら学んでいる。」という意識は高い。また、「自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表している」生徒の肯定的評価の割合は高いが、「自分の考えを積極的に伝えている」生徒の肯定的評価の割合が、昨年度より低くなっている。生徒が考えたいような課題の設定や発表の方法等、授業づくりの工夫に課題があると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「指導の目標や内容に対応した評価規準が設定されているか」、「評価方法は適したものであるか」、「生徒が本時のめあてに沿った振り返りを行っているか」、などに留意して、今後の授業研究や協議等を行う。また、評価に関する各教科等の実践を共有していく。 対話的な活動により、自分の考えと他者の考えを比較する場や自分の考えを再構成する場を設定し、振り返りでは、自分の考えを発表する時間を十分に確保する。
**	(貫)礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する	生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの「生徒会、委員会の提案する活動に積極的に協力しています」の肯定的評価は90%で、昨年度に比べて高くなった。学級や学校全体の課題や改善策を共有し、生徒会活動で、伝統の継承・発展に向けた取組や学習規律を整える取組を行った成果と考えられる。また、「スポーツ大会」や「Shining Sun Project」など、生徒が自主的・意欲的に取り組める活動を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は文化活動発表会を実施する。各学年が設定した課題を解決しながらその成果を発信し、伝統文化を発展的につなげる活動にしている。 生徒会活動や学校行事等で生徒一人一人が活躍できる場を設定し、主体的に取り組めるようにする。また、活動の意義を教員が毎回問い直し、生徒の意欲向上に努める。
		体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果では、得点合計は高くなっている。総合評価(A～E評価)で見ると、昨年度と比較し、2年生は評価が上がった生徒が1人に対して、下がった生徒5人(男子3人、女子2人)、逆に3年生は、下がった生徒は1人であるが、上がった生徒は男子3人、女子1人であった。得点合計は高くなり、目標はクリアできている。2年生には伸び悩みが見られ、逆に3年生は着実に体力がついている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生はこれから冬場にかけて基礎体力をつけるようにトレーニングを実施し、次回測定に向けた準備をしていきたい。3年生は体の成長が進み、体幹等がしっかりしてきた。体育の授業等でその体力を生かせるようプログラムを組み、更なる体力アップを図っていきたい。
		不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「生活リズムを整えて生活している」生徒の割合は88%と、概ね目標値に近い。一方で、学年ごとでは、1・2年生は76%、86%と目標を下回っている。特に、1年生は中学校生活のリズムに対応することができていないと考えられる。面談等による、実態の把握と指導が必要である。 「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合は91%と目標値を上回った。学年ごとの結果では、目標値に対して、1、3年生は上回ったが、2年生は86%と下回った。進路について不安を感じる時期でもあるので、進路を見通した取組が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子の変化を見逃さないよう丁寧な生徒指導、家庭との連携を行う。また、不登校の原因を多面的に分析し、登校できる環境を整える。 アムニティー環境推進委員会を通して全職員が生徒の様子を把握し、組織的に対応できるよう取り組む。 総合的な学習の時間の学習を中心として、自分の夢や目標に向けて努力することの大切さを実感できるように指導を行う。 ドリルタイムを活用し、個々の学力に応じた個別支援を強化し、学力の底上げを図る。
*	(貫)地域に感謝・貢献し活力を生み出す学校をつくる	地域に感謝・貢献し、地域の人材を活用しながら地域と協働できる場の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあります」に対する肯定的な回答は64%(1年59%、2年52%、3年83%)と、低い数値であった。本校がこれまで継承し発展させてきた地域に学び貢献する「総合的な学習の時間」の取組の形骸化が原因の1つと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との関わりを意識させ、関わる場をつくりながら、「生徒の心を耕し種を蒔く」指導が必要である。2学期は本格的に各学年の「活動」(1年落語、2年起業企画、3年創作劇)に取り組んでいくが、その過程の中で、「なぜその活動をするのか」を折に触れて意識させ、「こんな活動をしたい」といった「志」を持たせる指導を行う。
		(貫)生徒の「自分の命は自分で守る」力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「防災について、家族や地域の人たちと関わりながら、自分の命は自分で守る力をつけている」生徒の割合は目標値を超え、中でも2年生は100%であった。6月の「垂直避難訓練」や、7月の小学校・中学校合同「広南防災の日」などの行事の際に、地域の方々から地域の防災の取組や避難訓練への助言を聞くことで、「自分の命を守る」防災や減災に取り組んでいると意識する生徒が増えたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地域と連携しながら、災害の歴史を忘れない取組、自分の事として捉える取組、自分自身で身を守る方法を身につける取組を、各教科の授業や、生徒会等と連携し、工夫して実施する。
業務改善	(貫)働き方改革を推進する	長時間勤務の縮減に向けた業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 「子供と直接関わる時間が確保されている」に対する教職員アンケートの肯定的評価は100%であった。教職員は生徒と丁寧に関わっている。 時間外勤務時間は全体として昨年度より増加している。職員の入替わりで、初めて取り組む授業や行事の準備に時間がかかった。また、新校務支援システムの運用に莫大な時間を費やした。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事計画の確認や企画委員会での検討を丁寧に行うことで、業務量のバランスを考えた適切な役割分担や、見直しを持った計画的な業務遂行ができるようにしていく。

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	学校教育目標に沿い、進捗状況を加味しながら、適切に設定されている。
目標達成のための方策の適切さ	A	進捗状況を分析しながら、適切に設定されている。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	授業づくりでは、タブレットの効果的な活用や考える授業づくりが進んでいることが、参観した授業の様子からも実感できた。授業中の生徒の姿勢や眼差し、また、「文化活動発表会」での生徒の姿から、生徒一人ひとりが活躍する場がつけられ生徒が学年を追うごとに成長していることが感じられた。
今後の改善策(案)の適切さ	B	適切な内容である。誇れる教育を期待している。
その他		「故郷かるた大会」の事業への協力、文化活動発表会での采谷義秋選手を題材とした創作ミュージカル等、広南学園の文化発信に感動し、感謝している。広まちの元気や躍進に、学校・地域・行政が一体となって夢と希望を実現していきたい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が年に1回ずつ実施する校内研究授業等を通して、ICTの効果的な活用や、考え協議することで学びを深める授業づくりを推進する。 ・年度の後半の生徒会活動が、生徒による主体的な学校づくりに繋がるよう、支援する。 ・防災教育等、地域と協働した教育活動を創造する。 ・行事等の取組について、校内企画委員会で丁寧に検討することで、業務量のバランスを考えた役割分担や、見通しをもった計画的な業務遂行ができるようにする。
--------------------	--